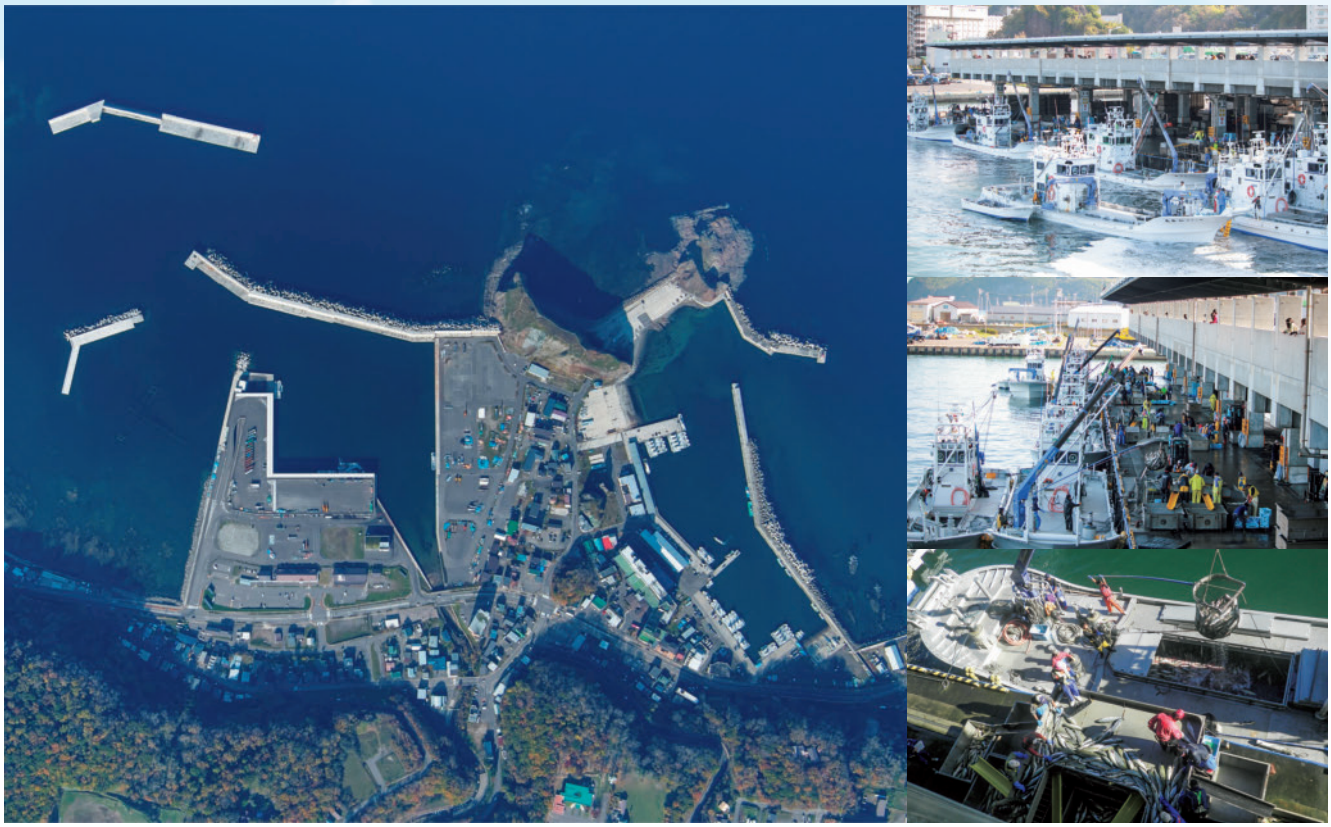
港のたより

Letter of Port
Vol.146
2024.8.2

一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター
COLD REGIONS AIR & SEA PORTS ENGINEERING RESEARCH CENTER



ウトロ漁港（写真提供：北海道開発局）

Contents

行事報告 みなとのニュース
第12回定時総会の開催 …… 2
小樽港第3号ふ頭クルーズ船岸壁供用記念式典・みなとオアシス小樽登録証交付式 …… 3
石狩湾新港開港30周年記念式典の開催について …… 4
「北海道マリンビジョンコンテスト2023表彰式」について …… 6
第67回（令和5年度）北海道開発技術研究発表会受賞論文（港湾部門）の概要について …… 8
関口　信一郎氏が日本港湾協会企画賞を受賞しました …… 10
令和6年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰 …… 11
増毛町が土木学会北海道支部地域活動賞を受賞しました …… 12
インフラメンテナンス　チャレンジ賞を受賞しました …… 13
センター通信
令和6年度　第1回 CPC 交流セミナー …… 14
令和6年度　第1回常任委員会の開催について …… 15
令和6年度　第1回編集小委員会の開催について …… 15
令和6年度　積雪寒冷地港湾・空港等の地域振興のための助成事業について …… 16
お知らせ
廣井勇著「築港」を現代語に訳し編集しました …… 17
一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センターの常勤役職員について …… 17
編集後記 …… 18

行　事　報　告

第 12 回定時総会の開催

令和 6 年 6 月 13 日(木)に一般社団法人寒地港湾空港技術研究センターの第 12 回定時総会を京王プラザホテル札幌において、会員 304 名(本人出席 112 名、議決権の代理行使 84 名、議決権の行使 108 名)のご出席のもと開催しました。会員の皆さまにご協力を賜りましたことにお礼申し上げます。

総会は佐伯浩会長の挨拶に続き、国土交通省港湾局技術企画課　近藤栞課長補佐からご挨拶をいただきました。その後、議案審議及び報告を行い、議案は原案通り承認されました。

○議案

第 1 号議案　令和 5 年度計算書類の件

第 2 号議案　役員の選任の件

第 3 号議案　役員の報酬等に関する規程の改正の件

○報告

報告事項 1　令和 5 年度事業報告の件

報告事項 2　令和 5 年度公益目的支出計画実施報告の件

報告事項 3　令和 6 年度事業計画及び収支予算の件

佐伯　浩会長挨拶

来賓挨拶
国土交通省港湾局参事官(港湾情報化)室
課長補佐　近藤　栞氏

総会の模様

総会終了後、菅井貴子様(UHB 情報番組「みんテレ」出演中、気象予報士、防災士)をお招きし、「港湾・空港を守る防災情報」と題し、ご講演をいただきました。

講演者の菅井貴子氏

講演会の模様

小樽港第３号ふ頭クルーズ船岸壁 供用記念式典・みなとオアシス小樽登録証交付式

北海道開発局　小樽開発建設部

小樽市と北海道開発局小樽開発建設部は、令和６年４月21日(日)ダイヤモンド・プリンセスの寄港に合わせて、小樽港クルーズターミナルにて「小樽港第３号ふ頭クルーズ船岸壁供用記念式典」を開催しました。式典では、約120人が出席され、迫(はざま)小樽市長の式辞で始まり、堂故国土交通副大臣の挨拶、中村裕之衆議院議員、鈴木宗男参議院議員、佐藤英道衆議院議員、岩本剛人参議院議員、おおつき紅葉衆議院議員からの来賓祝辞、祝電披露、事業概要報告が行われました。また、式典前の祝賀イベントとして、クルーズ船のお見送りで活躍されている小樽双葉高等学校吹奏楽部による演奏やおたる潮太鼓保存会による打演が披露され、式典に花を添えました。

これまで、小樽港に寄港する大型クルーズ船は、観光の中心地である小樽運河や中心市街地商業地区から2.5km離れた勝納ふ頭を利用していました。一方で、わずか300mに位置する第３号ふ頭は老朽化が進んでいたことから、既存岸壁を有効活用し、大型クルーズ船が係留できる機能を追加する第３号ふ頭クルーズ船岸壁の整備を2014年から開始しました。

本年３月に第３号ふ頭クルーズ船岸壁が完成したことによって、観光の中心地等への徒歩移動が容易となることから、多様なクルーズ観光需要に寄与することとなります。

テープカット・くす玉開披

ダイヤモンドプリンセス

クルーズ船岸壁が完全供用となった令和６年度の小樽港へのクルーズ船寄港は31隻を予定しており、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の29隻を上回るものとなっています。

また、当日は式典に併せて、港を核としたまちづく

クルーズ船岸壁全景(空撮)

みなとオアシス小樽・登録証交付

りを促進する「みなとオアシス小樽登録証交付式」が行われました。堂故国土交通副大臣から小樽市迫市長へみなとオアシス小樽の登録証が交付され、みなとオアシス小樽運営協議会の西條文雪会長が事業概要を説明されました。みなとオアシス小樽は、3月にオープンした「小樽国際インフォメーションセンター」を代表施設とし、小樽港クルーズターミナルなどで構成されており、全国161ヵ所、北海道内では13ヵ所目の登録となります。

来賓の方々からは、小樽港への期待を述べられ、最後に来賓や関係者によりテープカットとくす玉開披が執り行われ、供用開始を祝いました。

今後、小樽港は様々なクルーズ船の受け入れが可能な日本海側北部のクルーズ拠点へと発展し、クルーズ船の寄港回数の増加と乗客の地元消費拡大が期待されているところです。

小樽国際インフォメーションセンター

石狩湾新港開港30周年記念式典の開催について

石狩湾新港管理組合　企画振興グループ

令和6年6月、石狩湾新港は、関税法に基づき、外国との貿易が出来る国際貿易港として開港してから30周年を迎え、同月10日(月)、石狩湾新港開港30周年記念事業実行委員会(事務局：石狩湾新港管理組合)が、開港からの歴史を振り返るとともに今後の発展を祈念する式典を開催しました。式典には国会議員をはじめ、北海道議会議員、石狩湾新港管理組合議会議員、関係行政機関、港湾関連企業及び関係団体の皆様、約200名の参加がありました。

まず、実行委員会委員長である石狩湾新港管理組合管理者(北海道知事)鈴木　直道より「石狩湾新港は、札幌に最も近い港湾として、外貿定期コンテナ航路をはじめ、多くの船舶にご利用いただいてきたところであり、また、周辺地域には760社を超える企業の皆様に立地いただくなど、本道経済や道民の皆様の暮らしを支える物流拠点として成長してきました。さらに本港は、リサイクルポートとして、循環型社会の形成に向け、鉄スクラップなどの再生資源の輸出を支援するとともに、エネルギー供給拠点として、環境負荷の小さいLNG火力発電所のほか、バイオマスや洋上風力といった再生可能エネルギーを活用した発電施設が立地するなどゼロカーボン北海道の実現に向け、大きな役割を果たすことが期待されています」などと述べ、最後に「改めて関係する全ての皆様に深く感謝を申し上げます」と式辞を締めくくりました。

管理者式辞の様子

続いて祝辞では、函館税関小樽税関支署　日諸支署長が「石狩湾新港は開港して以来、国際貿易港として順調な発展を遂げ、輸出入額も令和4年には2千億円を突破しています。引き続き、通関続きの迅速化・効率化や様々な説明会を通じ、適切かつ円滑な通関を実現し、利用者の利便性の向上を図りながら、貿易の拡大と地域のより一層の国際化・活性化に貢献して参りたいと考えております」と述べました。次に、札幌出入国在留管理局　加藤監理官が「石狩湾新港は、北海道経済の中心であり、札幌圏の海の玄関であるばかりではなく、北海道経済と道民生活を支える生産と流通の拠点としての重要性は年々増大していると承知しており、当局においても、適正かつ円滑な出入国審査の実施により、石狩湾新港の更なる発展に寄与できれば

と考えております」と札幌出入国在留管理局　礒部局長の祝辞を代読しました。最後に小樽検疫所　三橋所長が「石狩湾新港では、小樽検疫所において年間200隻近い船舶の検疫や300件を超える輸入食品の行政検査を実施しております。また、港湾衛生協議会を通じまして、石狩湾新港の港湾区域における公衆衛生の向上、衛生状態の維持、危険な感染症等の国内への侵入並びに蔓延の防止を目的とした活動も行っています。これからも皆様と連携を密にし、石狩湾新港から感染症を侵入させない取り組みを進めてまいりたいと思います」と述べました。

その後のセレモニーでは、国会議員や実行委員会委員などがステージに登壇し、くす玉の開披を行い、本港の開港30周年を盛大に祝いました。

続いて、石狩湾新港管理組合　清野振興部長より、「30年の歩み紹介」と題し、本港の建設開始の様子をはじめ、第1船の入港や国際貿易港としての開港、コンテナ航路の開設のほか、石狩LNG基地の運転開始や東地区国際物流ターミナル整備事業の着工、そして本年1月の港湾区域内における洋上風力発電所の商用運転の開始など、港のトピックスを説明し、閉式となりました。

くす玉開披の様子

また、式典後には祝賀会が開催され、実行委員会特別顧問　迫小樽市長の主催者挨拶に続き、来賓の国会議員の皆様よりお祝いのお言葉を頂きました。同じく特別顧問　加藤石狩市長の祝杯で会が始まり、短い時間ではありましたが終始和やかな雰囲気となりました。締めには、先日の福山市にて開催の日本港湾協会総会で港湾功労者に表彰された石狩湾新港振興会　田岡会長の万歳三唱で、会場全体が本港の益々の発展を祈念し閉会となりました。

今年度実行委員会では、記念式典のほかに多くの市民がこれまで以上に本港に親しむとともに、港湾や物流への理解を深める機会として、8月10日(土)・11日(日)に石狩湾新港西埠頭特別会場において「石狩湾新港開港30周年記念フェスタ」を開催します。イベントでは、帆船日本丸を招聘し一般公開をするほか、ポートウォッチングやキッチンカーの出店、地元特産品販売を実施、HAMBURGER BOYSなどの道内アーティストのライブも行います。

この帆船日本丸は、本港では平成6年の開港以来、実に30年ぶりの寄港となります。貴重な機会となりますので、子どもから大人まで楽しめる夏休みの思い出の1ページに皆様のご来場をお待ちしております。

詳しくは、開港30周年記念事業WEBサイト(石狩湾新港管理組合のWEBサイト内)をご覧ください。

石狩湾新港は、本年で開港30周年という節目の年を迎えましたが、これからも先人の努力や苦労を後世に伝えつつ、着実に発展する港湾として地域の皆様とともに港づくりに取り組んで参ります。

帆船(写真は開港20周年時に寄港した海王丸)

開港30周年記念事業WEBサイトのQRコード

「北海道マリンビジョンコンテスト 2023 表彰式」について

北海道開発局　農業水産部　水産課

令和 6 年 7 月 1 日に「北海道マリンビジョン促進期成会」（以下、「期成会」という）の総会が札幌市内で開催され、関係者約 100 名が出席しました。期成会総会に併せて、「北海道マリンビジョンコンテスト 2023」（以下、コンテスト）の表彰式が行われましたので報告します。

マリンビジョン
MARINE VISION

各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献した優れた取組を表彰し、取組の更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会と北海道開発局との共催によりコンテストを開催しています。

平成 28 年度の第 9 回目までは表彰を「総合部門」「個別取組部門」としていましたが、平成 29 年度の第 10 回目以降は「最優良賞」「優良賞」「奨励賞」に見直して実施しております。

今回、第 14 回目となるコンテストでは、最優良賞はウトロ地域マリンビジョン協議会、優良賞は室蘭地域マリンビジョン協議会、根室地域（落石地区）マリンビジョン協議会、根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会、奨励賞は砂原地域マリンビジョン協議会が受賞し、それぞれ関係者に表彰状が授与されました。

受賞した取組の概要は以下のとおりです。

【最優良賞】ウトロ地域

ウトロ地域では、知床の知名度や水揚げ見学が可能な漁港、鮭の遡上観察が出来る河川等を生かして、ウトロ漁港と鮭の観光資源化、さらに鮭の地域ブランド化を目指し「鮭、日本一のまち」の PR に継続的に取り組んでいます。

令和 5 年度は、これまでの取組を発展させ、「鮭を知り、鮭から学ぶ」をテーマに 10 月 1 日から 10 日までの期間を「知床鮭ウィーク」と銘打って、期間中の毎日、地元の大型ホテルへ鮭を無償提供し、展示や料理に活用されたほか、「鮭のトークショー」を 1 日に 3 回開催し、10 日間で延べ 600 人以上が参加するなど大きな反響がありました。

また、「ウトロ鮭テラス」（人工地盤 2F）を活用した鮭の水揚げ見学は好評を博しており、観光ガイド事業者の体験メニューに取り込まれているほか、鮭を使ったおにぎりキッチンカーの試験出店を行うなど、「鮭、日本一のまち」の更なる知名度向上に努めています。

このような地元観光産業と連携した取組は、漁港施設の観光への活用、地域資源の情報発信の模範となる取組であり、また、取組のステップアップが図られていることから、最優良賞に選定されました。

最優良賞の表彰状授与の様子

【優良賞】室蘭地域

室蘭地域では、追直漁港の人工島などで水揚げされた室蘭産ホタテを活用して、「ほたてチリバーガー」を開発し、市内で開催される各種イベントで販売を行うことで市民への認知度は向上しましたが、市外での認知度は低く、市外向けの情報発信、室蘭産水産物の知名度の向上が課題となっていました。

そこで室蘭地域では、令和 5 年に静岡県で開催される「Sea 級グルメ全国大会 in 沼津」に参加し、ほたてチリバーガーを販売することを決定。本イベントでは、室蘭市や室蘭漁協の職員に加えて、地元高校生のボランティアらが協力して調理、販売を行い、2 日間で 2,287 個を売り上げるなど大きな反響がありました。

この取組は、地域で協力して開発した商品を通じて、地元産水産物の消費促進や知名度の向上を図った事例で、他地域の模範となる取組であると評価され、優良賞に選定されました。

【優良賞】根室地域（落石地区）

落石地域では、落石岬などの優れた景観、自然、水産物などの環境コンテンツの集積に恵まれながらも、孤立した立地などの問題から、漁業以外の関連産業が形成されていない状況にありました。

根室地域（落石地区）マリンビジョン協議会では、こうした課題の解決に向けて、優れた観光資源を活用したエコツーリズムの推進を図り、多くの来訪者との交流や、所得機会の向上に向けた取組を進めており、休漁期に漁業者の自営船をクルーズ船として活用し、漁業者自らがガイドとなって運航する「落石ネイチャークルーズ」を行っています。

近年は、外国人の参加者も年々増加しているため、翻訳機を用意するなどして外国人観光客の受入れについても力を入れています。

また、歩きながら自然を楽しむ「落石フットパス」では、ガイド不足が課題となっていることから、外部から講師をお招きして地元のガイドを養成するなど、地域の人材育成にも努めています。

これらの取組は、地域ならではの自然を生かした漁村の魅力発信の好事例として、また、地域の人材育成にも努めていることが高く評価され、優良賞に選定されました。

【優良賞】根室地域（歯舞地区）

歯舞地域の太宗漁業である昆布漁においては、近年、漁業従事者の高齢化や担い手不足が顕著となり、労力の確保が課題となっていました。

根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会では、こうした課題に対応するため、根室市が相互協力協定を結んでいる東海大学静岡キャンパスと連携し、同大学の「就労型インターンシップ」と歯舞漁協の「観光・滞在型の渚泊体験事業」を融合させた新たなインターンシップ制度を試験的に導入しました。

この取組は、一定期間、学生が漁家へ滞在するもので、漁家は学生のために食事と寝床を提供し、学生が昆布漁の作業全般を担うことで、昆布漁家の軽労化が図られ、学生側は地域住民と触れあう機会が増えることで、地域性や風土を深く学べることができ、漁業の魅力ややりがいを体験することができます。

この取組は、歯舞地域と大学の双方にメリットが得られるものとなっているほか、地域の魅力の発信や交流人口の拡大、若年層への水産業の理解向上、担い手不足への対応も図られる事業内容であり、これらの取組が高く評価され、優良賞に選定されました。

優良賞の表彰状授与の様子

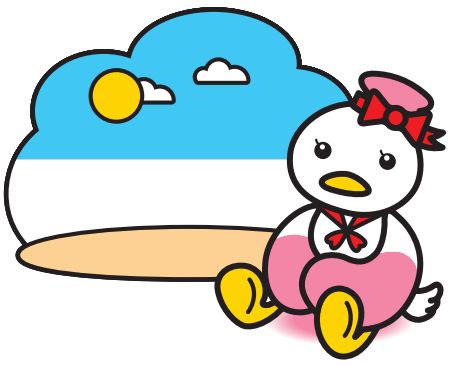
【奨励賞】砂原地域

砂原地域は、ホタテガイ養殖とスケトウダラ漁を二大太宗漁業としており、漁業と水産加工業が盛んな地域ですが、一方で、海が身近な環境にありながらも、近年は子供たちの魚離れが進んでいました。

そこで、砂原地域マリンビジョン協議会では、魚とのふれあいや魚食文化の普及を目的として、地元のさわら小学校や砂原中学校を対象に、ホタテガイの耳釣り・刺網漁業の網外し体験などを続けるとともに、森町がホタテを全国の学校へ提供した縁により、東京都の小学校からオンラインでの食育授業の依頼があるなど、地域外への発展も見えてきました。

この取組は、若手の漁業者が講師として参画しており、児童生徒へ向けた効果だけでなく、若手漁業者のやりがいにも繋がっています。また、令和５年からの新たな取組として、地域おこし協力隊と連携して食育授業等の様子を町の公式 YouTube へアップロードするなど、活動の PR も行われています。

若手漁業者の熱意と積極的な PR により、今後、更なる取組の発展が期待されるため、奨励賞に選定されました。

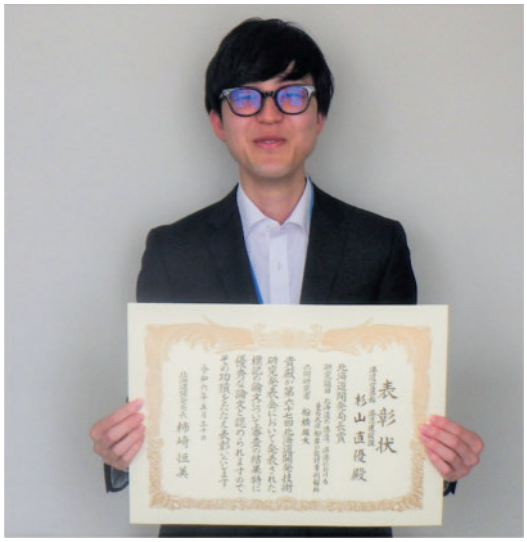


第 67 回（令和 5 年度）北海道開発技術研究発表会 受賞論文（港湾部門）の概要について

北海道開発局　港湾空港部　港湾建設課

第 67 回（令和 5 年度）北海道開発技術研究発表会は、令和 6 年 2 月 14 日から 16 日までの 3 日間にわたり、前回と同様に現地発表と WEB 配信のハイブリッド形式により開催されました。この中で、自由課題 7 カテゴリー 194 論文の発表が行われ、うち 18 件が港湾部門（港湾・漁港・空港関連）の発表となりました。

これらの論文の中から、研究の創造性、将来の発展性、プレゼンテーションの観点から北海道開発局長賞及び奨励賞、寒地土木研究所長賞及び奨励賞、北海道開発協会長賞及び奨励賞が選出されました。そのうち、港湾部門（港湾・漁港・空港関連）からは各賞あわせて 6 件が受賞されましたので、研究課題と発表者（所属は発表当時）をご紹介します。



北海道開発局長賞受賞の杉山技官（港湾建設課）

【北海道開発局長賞　受賞論文】

研究課題　カテゴリー　安全・安心（安-74）

北海道の港湾・漁港における重力式係船岸の設計事例解析

発表者

港湾空港部　港湾建設課　　杉山　直優
同上　　船橋　雄大

概　要

港湾･漁港の構造物の設計にあたっては、安定性、経済性、施工性等、様々な要因を考慮する必要がある。一方で、技術者の経験不足により、設計の適否判断に苦慮する状況が生じている。本研究は、北海道内で採用事例の多い重力式係船岸の事例解析を通じ、設計水深に対して、構造の安定確保に必要となる堤体幅といった構造諸元に関する指標や、照査により、断面が転倒で決まる可能性の推定方法など、設計計算で求めた断面を事例との比較により感覚的に評価できる指標を提案するものである。本指標は、設計断面を評価する際に注意が必要となる条件を確認する上で、活用が期待できる。

【寒地土木研究所長賞　受賞論文】

研究課題　カテゴリー　ゼロカーボン（ゼ-4）

既往藻場調査データを活用した藻場空撮画像解析による藻場面積の推定手法
―調査時期の異なる教師データの活用について―

発表者

（国研）寒地土木研究所　水産土木チーム　　本山　賢司
同上　　松本　卓真
同上　　森　　健二

概　要

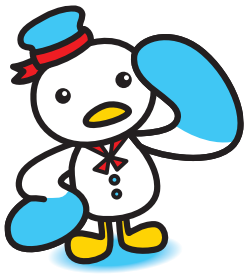
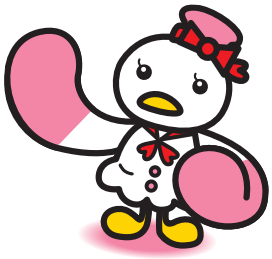
近年、ブルーカーボンの CO_2 固定効果への期待の高まりを受け、今後の CO_2 固定効果を確認する藻場調査の需要増加が見込まれる。他方、藻場調査を担うダイバーが減少し、効率的な藻場調査手法の開発が急務である。藻場面積は藻場空撮と同時期に行った藻場調査を教師データとした画像解析で推定するが、本研究では、調査時期が異なる藻場調査の結果を教師データとして利用する方法を検討したので、その概要について紹介する。

【北海道開発協会長賞　受賞論文】
研究課題　カテゴリー　安全・安心(安-72)
d4PDF を用いた潮位偏差の将来変化予測手法の提案
発表者
港湾空港部　港湾建設課　　惠平　寿輝
同上　　船橋　雄大
北日本港湾コンサルタント株式会社　　佐藤　典之
概　要
気候変動の影響に伴い高潮による潮位偏差は将来増大することが予測される。このため、今後の港湾・漁港において気候変動対策を検討する上で、港の利用や施設の安全性に影響する将来の潮位偏差を適切に算定・把握することが重要である。本研究は、d4PDF(地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース)を用いて、潮位偏差を簡易な手法である線形長波方程式により計算し、実測値との比較によって補正した上で将来変化率を求め、現行の既往最大潮位偏差に乗じることで将来の潮位偏差を予測する手法を提案するものである。

【北海道開発局長奨励賞　受賞論文】
研究課題　カテゴリー　ゼロカーボン(ゼ-3)
元稲府漁港における藻場調査
―北防波堤整備によるブルーカーボン生態系の創出効果の算定に向けて―
発表者
網走開発建設部　紋別港湾事務所　　秋田谷　肇
同上　　丸山　修治
株式会社アルファ水工コンサルタンツ　　吉田　侑矢

【寒地土木研究所長奨励賞　受賞論文】
研究課題　カテゴリー　安全・安心(安-73)
オホーツク海の波浪研究に関するこれまでの取り組み
発表者
(国研)寒地土木研究所寒冷沿岸域チーム　　岩﨑　慎介

【北海道開発協会長奨励賞　受賞論文】
研究課題　カテゴリー　地域づくり(地-31)
ホタテ貝殻を細骨材に活用したコンクリートの海洋構造物への適用性について
―漁業地域における循環型社会の形成に向けて―
発表者
函館開発建設部　函館港湾事務所　　峰尾　大樹
同上　　加藤　直樹
株式会社アルファ水工コンサルタンツ　　清水　　裕

関口　信一郎氏が日本港湾協会企画賞を受賞しました

寒地港湾空港技術研究センター

当センター特別調査役の関口信一郎氏が「日本港湾協会企画賞」を受賞しました。

日本港湾協会企画賞は、「港湾に関する映像、著作、イベント等において、その企画表現が特に優れたもので、港湾の啓蒙、整備促進への貢献等が顕著であった個人又は団体」を顕彰するものです。

関口信一郎氏は書籍「世界港湾史～世界の港と水運ネットワークの発展史」を発刊したもので、本書は、古代メソポタミアから20世紀中期までの時間軸で、その主要な舞台となった港に焦点をあて、世界における海上交易の発展を俯瞰的に描いた世界港湾史であり、我が国の土木技術の貢献の視点でも整理されています。

特に、古代メソポタミアから人類の経済活動を支えてきた海上交易の拠点となる港湾について、地形、気象海象や社会活動などの異なる条件のもとで、いかなる経営戦略により発展したかが記述されています。また、我が国の港湾の近代化を先導した廣井勇博士の直弟子である岡崎文吉、内田富吉、青山士の業績を取り上げ、世界の海上交通や港湾の発展に貢献したことをつまびらかにした書籍であります。

今後の我が国の港湾政策を考える上で、非常に有益なものとなっており、我が国の土木技術が世界の海上交通や港湾の発展に貢献したことを知ることができ、現在の港湾技術の更なる理解に繋がる書籍であります。

表彰式は、5月29日(水)に広島県福山市で開催された日本港湾協会の総会において行われました。

令和６年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰

北海道開発局　農業水産部　水産課

令和６年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰の受賞者が、令和６年４月19日に決定し水産庁から公表されました。

この表彰は、漁港漁場関係事業への理解を深めるとともに、漁港漁場建設技術の向上を図り、漁港漁場関係事業の円滑な実施に資することを目的として、他の模範に足る功績を残した請負者に対して与えられるものです。

受賞企業は全国の漁港漁場整備に携わった中から、農林水産大臣表彰に３社、水産庁長官表彰に９社選定されました。このうち、道内の企業としては、岩倉建設株式会社（鈴木　泰至　代表取締役社長）、白鳥建設工業株式会社（堀松　誠　代表取締役社長）が水産庁長官賞を受賞しました。心よりお祝い申し上げます。

令和６年５月９日には、農林水産省（東京）において表彰式が行われております。

受賞者一同
（後列右から順に、岩倉建設株式会社、白鳥建設工業株式会社）

増毛町が土木学会北海道支部地域活動賞を受賞しました

増毛町　建設課

土木インフラである屋根付き岸壁を活用した農水産品の輸出拡大に貢献する取組として、令和６年５月17日に増毛町が令和５年度北海道支部地域活動賞を受賞しました。

増毛港は、エビ、タコ、ナマコの水揚げやホタテ稚貝生産等、北海道有数の水産業の拠点として重要な役割を担っており、2017年に認定された「農水産物輸出促進計画」に基づき、水産物の鮮度や品質低下等を防止するための屋根付き岸壁が整備されました。

増毛町と増毛漁業協同組合は、2023年に道内商社が企画した海外バイヤーの招聘事業に参加し、同年７月に海外大手バイヤーによる屋根付き岸壁や水産加工場の視察に合わせ、職員自らが屋根付き岸壁の効果を説明しました。

視察に訪れた海外バイヤーからは「屋根があり、海水の供給もしっかりしているため、非常に衛生的である」といった評価がなされ、甘エビ等の輸出が実現し、更なる輸出促進を目指しております。

屋根付き岸壁

屋根付き岸壁全景

授賞式の様子

賞状後の記念撮影

インフラメンテナンス　チャレンジ賞を受賞しました

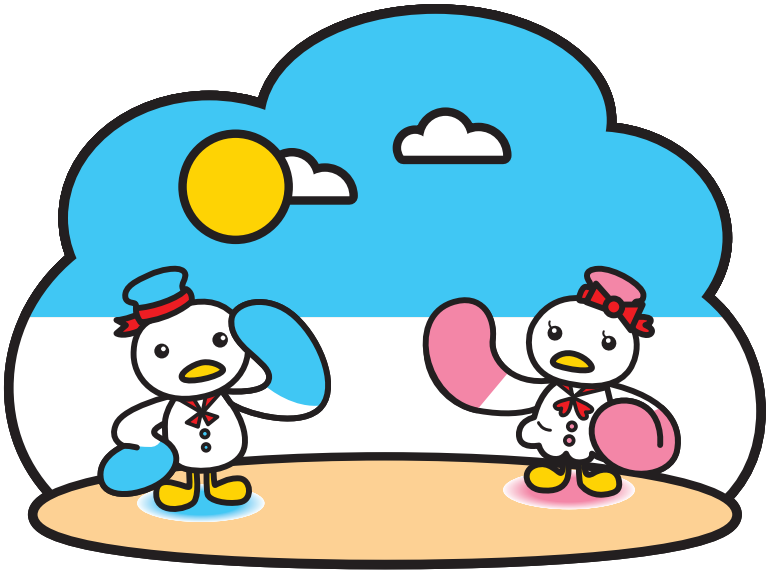
苫小牧港管理組合

苫小牧港管理組合は土木学会「2023年度　インフラメンテナンス　チャレンジ賞」を受賞いたしました。日頃からご指導、ご協力いただいている皆様に御礼申し上げます。

当組合が応募した取り組みは「苫小牧港独自の点検診断要領の策定等、持続可能な維持管理に向けた工夫」です。

「苫小牧港港湾施設点検診断要領」は、①施設のライフサイクルコスト(LCC)の低減につながるか、②当該施設の損壊により、人命、財産又は社会経済活動に重大な影響を及ぼすことが無いか、の2点に特に留意し、いつどのような補修を行うべきかを判断するために点検を行い、施設本来の性能を維持していくことを目的としています。また、点検費用を縮減しながらも、効率的な維持管理を行う方策として、クラウドサービスを利用した点検写真の一元管理、ドローン等の活用を盛り込んでいます。

今後も新しい技術や考え方を取り入れ、より適切な維持管理を行えるよう取り組んで参ります。



編集後記では、働き方改革の中でワークライフバランスの重要性やその実現方法について触れることにします。はじめにワークライフバランスの重要性について考えてみましょう。適切なワークライフバランスを実現することによって、健康や幸福感の向上、ストレスの軽減、仕事へのモチベーションの維持など様々なメリットがあります。また、家族や友人との時間を確保することで、人間関係の充実や心の豊かさにもつながります。

次にワークライフバランスを実現するための方法としては、いろいろなアプローチがあります。今の自分にとって本当に大切なことを考え、仕事だけでなく、家族や趣味、自己成長など、バランスの取れた人生を送るために、はじめに優先順位を設定することを考えましょう。また、今の働き方に自己評価を行い、必要な変化を起こす勇気を持ちましょう。加えてワークライフバランスを保つために健康を維持することも重要です。適度な運動や栄養バランスの取れた食事、十分な睡眠を確保しましょう。そしてワークライフバランスは個人によって異なるため、自分に合った方法を模索することも重要です。それには楽しみや癒しを取り入れることが同じくらい重要です。

今年の初夏に１週間ほど休暇をとり、香川県に旅行に出かけました。讃岐うどんの食べ歩きです。讃岐うどんの名店が集まる地域は高松市や丸亀市などが有名ですが、事前に口コミや評価を調べ、訪れたいお店をリストアップして距離やアクセスの便利さ、営業時間などを考慮して効率的なルートを作成しました。複数のお店を回ることで味の比較とその独自の伝統や職人の技術とこだわりに驚かされ、お店の個性や特色、その美味さに何度も魅了されました。数日間で人気のお店から穴場のお店まで出かけ、モチモチとした麺の食感といりこ出汁、美味いつけ汁、トッピングなど、様々な要素が組み合わさった味わいに出会い、心地よさや幸福感をもらい、思い出に残る食べ歩き旅行となりました。

ライフワークバランスの過ごし方は、各人のライフスタイルや価値観によって異なりますが、旅行はその一つとして、日常の疲れを癒し、リフレッシュするための良い方法です。新しい環境や文化に触れ、心身をリラックスさせることで、仕事へのモチベーションを向上させることができます。ワークライフバランスを実現することは、企業の生産性の向上や持続的な成長に貢献できます。なによりも自己の充実した人生を送るために不可欠な要素です。是非、日々の生活に取り入れてみてください。

(H.S)

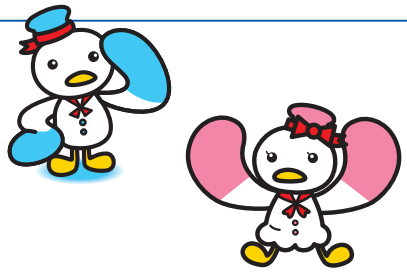
表紙の写真：①ウトロ漁港全景、②～④ -3.5m 岸壁＋人工地盤の利用状況

ウトロ漁港は、北海道東部のオホーツク海に面した知床半島に位置する第４種漁港です。

知床国立公園のオホーツク海側の玄関口となっており、多くの観光客が訪れます。平成 17 年には、本漁港が位置する「知床」が国内３番目となる世界自然遺産に登録されました。

ウトロ漁港では定置網漁業を中心とする沿岸漁業が盛んに行われており、特にサケ・マス漁は全国的にも有名です。また、近年では安全で高品質な水産物の提供、ブランド化の推進が求められています。

本漁港は、気象・海象の変化が激しい知床海域の緊急避難や北海道有数の水産基地としての役割を持つほか、地域の再開発、災害時の海上輸送基地としての役割も担っています。

港のたより 【Vol.146】 2024 年 8 月 2 日

一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター
〒001-0011　札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号　セントラル札幌北ビル 5 階
TEL(011)747-1688　FAX(011)747-0146　https://www.kanchi.or.jp